

第10回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー報告書

2012年11月22日（木）午後3時30分から、京都府立大学附属図書館3階視聴覚室において、環境科学技術研究所の副主任研究員である武田晃先生による講演が行われた。講演題目は、「農耕地土壌における多量および微量元素の組成と挙動」であり、聴講者は、京都府立大学の学部学生と大学院生に加えて、本学名誉教授や他大学からの参加者（京都大学・大学院生）も含め、約15名であった。

講演では、生命環境には濃度の違いこそあれ全ての元素が含まれているという概念の紹介から始まった。続いて、特に土壌に関して、主要な構成成分である多量元素以外に、多くの微量元素が含まれており、その組成（量および化学形態）は土壌生態系の健全性に大きく影響すること、また土壌の元素組成には、母材（岩石や火山灰などの種類）や生成環境（気候・地形など）の違いが反映されており、特に農耕地土壌では土壌管理（施肥方法など）の影響が大きいことなどが詳細な実証データとともに報告された。さらに、昨今注目を浴びている放射性セシウムの挙動についても詳細な説明が行われた。その後、聴講者との間で、活発な議論が展開され、土壌中の元素の存在形態と挙動との関係などについて、有意義な意見交換が行われた。

最後に、積極的に参加してくれた聴講者の方々に感謝するとともに、このような機会を与えて下さった、鴨叡会および学科の各位に感謝申し上げます。

(2012年11月30日 矢内純太)

